

事項一〇 日本軍歐洲派遣ニ関スル交渉一件

六〇一 三月十九日 在英國井上大使ヨリ
牧野外務大臣宛

英國海軍政策ニ付「チャーチル」海軍大臣ノ為
シタル議會演説ニ関シ報告ノ件

附屬書 三月十七日「チャーチル」氏ノ為シタル議會

演説中日本及日英同盟ニ言及シタル箇所ノ要
領

政公第四二号 (四月十三日接受)

大正三年三月十九日

在英

特命全權大使 井上勝之助(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本月十七日当国下院ニ本年度ノ海軍予算提出ノ際海軍大臣
「チャーチル」氏ガ当国海軍政策ニ関シ一場ノ演説ヲナシ
日本及日英同盟ニ言及シタル次第ハ不取敢往電第四〇号
ヲ以テ申進置候ニ付既ニ御承知ノコトト存ジ候処右演説全
体ノ要旨別紙ノ通り茲ニ及御報告候条御査閱相成度尚右海
軍予算及ビ之レニ関スル演説ノ詳細ハ別紙白書及ビ新聞切

ノ建造ヲ早メントス即チ昨年加奈多ノ戦艦献納ニ関スル法
案否決セラレタル際一九一三―一四年度造艦計画中三隻ノ
戦艦ハ最初ノ計画ヨリモ八九ヶ月早く建造スルコトトナシ
タル如ク本年ハ一九一四年度造艦計画中二隻ノ戦艦建造ニ
成ルベク速ニ着手セントス

太平洋方面ニ関シテハ英國海軍ノ存立スル限り歐洲列強中
濠洲及ビ「ニュージールランド」ヲ制服シ得ルモノナカル
ベク又右海軍ハ此等ノ地方ニ対スル日本ヨリノ侵略ヲ防止
スベシ日英同盟繼續シ而シテ英國ガ制海權ヲ把リ居ル間ハ
日本ハ歐洲ノ大艦隊ニ襲撃セラルル虞ナク右ハ向後日本ガ
歐洲ノ干渉ヲ免カルル唯一ノ方策ナルベシ日本ガ同盟ヲ結
ビ之レヲ更新シタル理由ハ時ト共ニ鞏固トナルベク支那ニ
於ケル歐洲諸國ノ利益關係ノ發展並ニ日本ノ企及シ得ザル
大仕掛ノ歐洲諸國ノ海軍ノ発達ハ日本ヲシテ益々英國海軍
ニ倚賴セシムルニ至ルベシ同盟条約ニ依ル英國ノ日本ニ対
スル義務ハ單ニ歐洲ノ他國ガ大艦隊ヲ支那海ニ派遣シ同海
面ニ於ケル海軍力ノ均衡ヲ突然變更スルコトヲ防止スルニ
止マラズ同海面ニ他ノ歐洲列強ノ海軍ヲ凌駕スル海軍力ヲ
維持シ從テ極東ニ於ケル歐洲諸國ノ艦隊ノ漸次増加ガ日
本ニ及スコトアルベキ危險ヲ阻止スルニアリ一九〇九年海

一〇 日本軍歐洲派遣ニ関スル交渉一件 六〇一

抜ニツキ御承知相成度此段申進候 敬具

追テ海軍予算案ハ加奈多便ヲ以テ送付致候

註 別紙白書及新聞切抜省略

(附屬書)

三月十七日「チャーチル」氏ノ為シタル議會演
説中日本及日英同盟ニ言及シタル部分ノ要領

当國ノ海軍政策ガ独乙ノ海軍ニ対シ六割ノ優勢ヲ維持スル
ニアルコトハ二ヶ年前当院ニ於テ説明シタル通りニシテ右
政策ハ今日ト雖モ毫モ變ル処ナシ本年ハ其ノ當時定メタル
造艦計画ニ依リ四隻ノ戦艦ヲ新ニ建造セントス

現内閣ニ於テハ一九一二年七月地中海ニ於ケル狀勢精査ノ
結果單独同海面ニ於ケル我が重要利益保護ノ任ニ当ルベキ
コトヲ決定シタル次第ナルガ海軍省ニ於テハ此ノ政策ニ基
キ一九一五年末迄ニ戰艦八隻裝甲巡洋艦四隻普通巡洋艦
四隻驅逐艦十六隻ヲ同海面ニ遣派スル積ナリ之レガ為メ本
年ハ昨年ノ決定ニ從ヒ既ニ造艦計画ニ編入セラレタル新艦

外領土ト結ビタル海軍取極ノ精神ハ太平洋及ビ印度洋ニ濠
洲艦隊ニ倍スル海軍力ヲ維持セントスルニアレドモ吾人ハ
實際上現ニ之レ以上ノ設備ヲナシツツアリ日本トノ同盟ハ
更新セラレ一九二一年迄効力存続スルコトトナリタルガ右
ハ海外領土ニ於テモ全然同意シタル処ニシテ同年以後ニ於
テモ日本ハ世界第一ノ海軍國タルベキ有力ナル友人ヲ極
東ニ於テ必要トスル程度ヲ減スルコトアラザルベシ日本政
府ノ有名ナル信義及ビ自制ノ念若ハ兩國相互ニ与ヘタル援
助及ビ同盟ニ依リ兩國ノ受ケタル利益ハ暫ク之レヲ措クモ
今ヤ兩國間ニ鞏固ナル利害關係ノ繼續セルモノアリ之ノ関
係コソ濠洲及ビ「ニュージールランド」ニ対シ有効ナル保護
ヲ与フルモノニシテ右關係ノ存立ハ一ニ英國海軍制海權ノ
維持ニ依ルモノナリ海外領土ニ於テ其ノ防備ノ為メ各自ノ
統御シ各自ノ沿岸ヲ遊弋スル軍艦ヲ建造センコトヲ希望ス
ルハ尤ナルコトナルガ右ハ海軍戰略上統一ヲ保ツコト難
カルベシ反之濠洲「ニュージールランド」加奈多南阿連邦
各々帝國艦隊ニ戦艦ヲ献納スルコトアランカ吾人ハ茲ニ真
ニ強固有効ナル海軍力ヲ作り世界ヲ濶歩スルヲ得ベシ
吾人ハ熟練セル外交ニ依リ一部ノ武備ヲ解キ危險分子ノ離
散ヲ計ルコトヲ得ンモ海軍力ニ依ルニアラズンバ外交モ充

六二九

分効ヲ奏スルコト難シ歐洲大陸諸国ガ本年ニ至リ從來嘗テ見ザル軍事費ヲ支出シツツアルコトハ吾人ノ知悉セル処ナルガ此ノ間ニ際シ吾人ハ有力ナル海軍ヲ維持セズンバ政府トシテ其ノ義務ヲ尽シタリト信ゼザルナリ云々

六〇二 八月三十一日 在露国本野大使ヨリ 加藤外務大臣宛(電報)

露国外務大臣ガ日本軍ノ歐洲派遣要請方ニ関シ英仏両政府ニ提議シタル旨在露英仏両国大使来談ニ付請訓ノ件

第四七九号(極秘)

八月三十一日午後三時在露仏国大使本官ヲ訪問シ時局ニ関スル談話ノ末極メテ重大ナル事項ニ関シ内話アリタルニ付不取敢電報ス
露国外務大臣ハ本日在露英国大使及在露仏国大使ヲ招キ歐洲ノ時局益々紛糾スルニ付テハ可成速カニ独逸国ニ対シ大打撃ヲ加フル必要上此際日本国ヨリ援兵ヲ請フノ可否ニ関スル問題ヲ提出シタルカ若シ日本ニシテ結局之ヲ承諾スルニ於テハ三国協商側ノ為メ極メテ有利ナリトノコトニ意見

六〇三 九月二日 加藤外務大臣ヨリ 在露国本野大使宛(電報)

日本軍ノ歐洲派遣ハ考量ノ余地ナキ旨回訓ノ件

第三六八号

貴電第四七九号ニ関シ我軍隊ヲ歐洲ニ派遣スルカ如キコトハ貴見ノ如ク到底帝國政府ニ於テ考量シ能ハサル義ニシテ英国政府ニ於テモ右提案ヲ我國ニ取次グガ如キコトアルマジトハ思考スルモ右御含ノ上露国外務大臣ヨリ本件申出アリタルトキハ貴官限リニ於テ然ルヘク御応答相成タシ

六〇四 九月三日 在英國井上大使ヨリ 加藤外務大臣宛(電報)

英國外務大臣日本艦隊地中海派遣ノ希望ヲ内話ノ件

第二五四号(極秘)

九月二日外務大臣ノ需メニ応シ訪問シタルニ同大臣ハ独逸軍人引続キ多数土国ニ入込ム報道ニ接セリ土国ハ何時如何ナル敵対行為ニ出ヅルヤ計リ難ク土国軍艦ニシテ独逸軍人ノ操縦スル所トナレバ「ゲーベン」「プレスラウ」ヲ併セ

一致シ露国外務大臣ハ本日在英露国大使ニ電訓シ本件ヲ英國政府ニ提議シ同政府ヨリ日本國政府ニ対シ日本兵三軍団ヲ歐洲ニ輸送スル様交渉方英國政府ニ依頼セシメタリ在露英國大使及ヒ在露仏国大使ヨリモ本日本件ニ付本國政府ニ發電シタル由ナリ

英國政府ハ果シテ露國ノ提議ニ応シ帝國政府ニ対シ右交渉ヲ開始スヘキ哉否ヤハ予知シ難キモ仏國方面ノ戦況余リ思ハシカラサル様子ニ見受ケラルルニ付英國政府ヨリ右提議ヲ取継クヤモ計リ難シト思考ス尚本日午後四時三十分在露英國大使来訪シ露国外務大臣ハ熱心ニ日本國政府ノ援兵ヲ希望セル旨ヲ語り日本國政府ノ意嚮如何ナルヘキヤト質問シタルニ付本官ハ之ニ対シ英國政府ヨリ帝國政府ヘノ要求ハ極東方面ニ限ラレ又歐洲ヘノ出兵ハ何分遠方ノコトナレバ帝國政府ハ恐ラクハスル事態ヲ考量シ居ラサルヘシト思考スル旨答ヘ置キタリ本件ニ付テハ何レ露国外務大臣ヨリ何トカ申出ヅベキ事モアルヘシト信スルニ付閣下ノ御意見本使ノ心得迄ニ至急御内示アランコトヲ請フ

テ却々侮リ難キガ仏國艦隊「アドリアチック」海ニ於テ塙國艦隊ニ備フル必要アルニ付英國海軍大臣ハ帝國政府ニ於テ日本ヨリ艦隊ヲ差当リ地中海ニ派遣セラレ追テ戦局ノ發展ニ伴ヒ同艦隊ヲ他ノ方面ニモ出動セシムルコトセラレタキ希望ニ付英國政府ハ之カ為途中炭水ハ勿論必要ノ軍用品ヲ供給スヘク此ノ計畫遂行ノ為万一帝國政府ニ於テ外國公債ヲ起ス場合ニハ援助ヲ与フヘシトテ本件ニ関スル本使ノ意見ヲ求メラレタルニ付本使ハ日本國ガ独逸國ニ対シ開戦スルニ至ルハ日英同盟協約ニ基キ東亞ニ於ケル兩國ノ利益ヲ擁護スルカ為ナレハ本使一己ノ意見ニテハ帝國政府ニ於テ右希望ニ応シ其軍事行動ヲ歐洲迄拡張スルノ意志アリヤ疑ハシキモ英國政府ノ御希望ナレハ本國政府ニ電報スヘシト答ヘタルニ同大臣ハ在日本英國大使ニ電訓前一応本使ノ所見ヲ承知シタキ次第ナリシカ屯ニ角本件ニ付閣下ヘ懇談方内訓スヘキニ付本使ヨリモ帝國政府ニ本件内報セラルルヲ得ハ幸甚ナル旨語ラレタリ

一〇 日本軍歐洲派遣ニ関スル交渉一件 六〇五 六〇六

六三二

六〇五 九月 三日 在本邦英國大使ヨリ
加藤外務大臣宛

British Embassy,
TOKYO.

日本艦隊ノ地中海派遣方要請ニ関スル英國外務

September 3 1914.

大臣ヨリ在本邦同国大使宛電報送付越ノ件

註 右ハ九月三日英國大使來省加藤外務大臣ニ手交セラレ
タリ

Secret.

Sir Edward Grey informed the Japanese Ambassador in London that the British Admiralty were anxious to know whether the Imperial Japanese Government would be disposed to send a division of their Navy in order to cooperate with the British and French Fleets primarily in the Mediterranean and ultimately in the decisive theatre of the war. Both the British Government and the British Navy would warmly welcome such assistance on a scale proportionated to the Naval Power of Japan, and such assistance would contribute materially to the general advantage of the Allies and to the curtailment of the war. His Majesty's arsenals and dockyards would be ready to afford every facility for supplies and repairs to the Imperial Japanese Navy, and His Majesty's Government might help to overcome any financial difficulties if such should exist.

国政府ヨリ何等回答ニ接セサレトモ右アリ次第内報スヘシト云ヘリ外務大臣ノ口氣ニ依リ察スルニ最初英國政府ヨリ露兵三軍団ヲ仏國ニ輸送方交渉アリタルモ此際露國ヨリハ到底援兵ヲ送ル余地ナキニ対独交戦國全体ノ利益ノタメ日本國ヨリ援兵ヲ請フヲ最モ得策ト認メタルモノノ如シ

六〇七 九月 四 日 在英國井上大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

歐洲戦局ニ日本参加ノ英國要望ニ付政府ノ熟慮
方稟申ノ件

第二六一号 極秘

歐洲戦局ニ帝國ガ参加ノ件ニ付英國外務大臣ガ本使ニ内話シタル次第ハ往電第二五四号ノ通ナルガ現在日本國ノ立場ニ鑑ミ帝國ガ此際其軍事行動ヲ歐洲ニ及ホス不利且不得策ナルハ今更本使ノ喋々ヲ要スル迄モナキ次第ニ付從テ右英國政府ノ希望ハ考量ヲ加フルノ余地ナキ義ト信スルモ本件ハ帝國政府ニ於テ其結果ノ及ホス所ヲ熟慮セラレンコトヲ望ム又曩ニ英國外務大臣ハ帝國ノ軍事行動ニ関シ地理的局限ヲ主張セラレタル次第モアレハ其点ヲ九月二日会见ノ際

一〇 日本軍歐洲派遣ニ関スル交渉一件 六〇七 六〇八

六〇六 九月 三日 在露國本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日本軍ノ歐洲派遣ハ実行不可能ナリト露國政府
ニ回答セル旨報告ノ件

第四八六号

九月三日外務大臣ニ面會貴電第三六九号ノ件ヲ通知シタルニ無論露國政府ニ於テハ異存ナシ早速陸軍大臣ニ通知スヘシトノコトナリ又貴電第三六八ニ関シテハ予想ノ如ク先方ヨリ帝國政府如何ナル意嚮ナルヤヲ質問シタルニ付往電第四七九号所載露國駐劄英國大使ニ答ヘタルト同様答ヘ置キタリ尚本使ノ意見トシテ帝國政府ニ於テ本問題ニ付仮令同情アリトスルモ其ノ実行殆ント不可能ナルヘシト思考スル旨ヲ述ヘ置キタリ露國外務大臣本件ニ付九月一日皇帝陛下ニ上奏シ九月二日英國政府ニ交渉シタルモ九月三日迄ハ英

同大臣ニ指摘シタルニ右ハ太平洋方面ヲ指示スル意味ニテ地中海ハ別問題ナリト附言セラレタリ旁英國政府今回ノ申出ハ戦局ノ急ニ処センカ為自家撞着ノ言ヲ為セン嫌アリ本使ノ卑見追申ス

六〇八 九月 四 日 在露國本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日本軍歐洲派遣問題ニ付在露國英國公使ノ談話
報告ノ件

第四八七号

九月四日英國大使ヲ訪問往電第四七九号ノ件ニ関シ本國政府ヨリ何等カノ來電アリシヤ問合セタルニ在日本英國大使ノ意見ニテハ縱ヤ日本國ヨリ援兵ヲ輸送シ得ルトスルモ五六万人以上ハ六ヶ敷カルヘク又急速ニ之レヲ輸送スルコトハ到底不可能ナルヘク且下英國駐劄仏國大使ト協議中ナリトノ來電アリタルノミナリト語レリ

六三三

六〇九 九月 五日 在露国本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

日本軍ノ歐洲派遣方要請ノ露国提議ニ英国賛同

ノ場合ニ付意見上申ノ件

第四八九号 極秘

援兵輸送問題ニ関スル今日迄ノ成行ハ昨日電報シタル通ナルガ万一英国政府ニ於テ露国ノ提議ニ同意シ帝國政府ノ考量ヲ求ムル場合ニ於テモ帝國政府ハ絶對的ニ之ヲ拒絶セラハ御決心ナルヤ本問題發生以來其利害得失ニ関シ熟慮ヲ遂ケタル処卑見ニ依レハ事實上実行不可能ナラサル限帝國政府ニ於テ出来得ル範圍内ニ於テ援兵ヲ送ルコトニ御決定相成方帝國將來ノ為極メテ有利ナリト思考ス今更改メテ申迄モナク事變終局ノ曉世界ノ形勢ニ一大變動ヲ来スヘキハ予想スルニ難カラス而シテ援兵輸送ハ独塊ニ對スル結局ノ勝利ヲ速ナラシメ且平和條約締結ノ際成ルヘク多ク發言權ヲ得セシメ依テ以テ帝國發展ノ素地ヲ造ルモノナリト確信ス援兵輸送ニ付テハ財政上ノ問題ハ第一ニ考量セサルヘカラサルコトナルモ差当リ英露仏ヲシテ之ヲ負担セシメサルヘカラサルハ勿論ニシテ三国ニ於テモ異議アルヘキ筈ナシト信ス本問題ハ講和條約締結ニ際シ極メテ重要ノ關係ヲ

メニ國民ニ服役ヲ課シタルヨリ成レルモノナルコト御承知ノ如クナルニ付テハ其目的以外ニ外邦援助ノ為メ之ヲ使用センコトハ國民ノ到底同意セサル処ナルヘク政府亦其同意ヲ強ユル能ハサル義ト思考スルニ付万一英国政府ヨリ本件ヲ提議シ来ルトスルモ政府ハ叙上ノ理由ニヨリ拒絶スル考ナルニ付右ニ御含置相成タシ

六一二 九月 九日 加藤外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛（電報）

日本軍艦歐洲派遣謝絶ノ旨申入方訓令ノ件

第二〇一号

貴電第二五四号ニ関シ在本邦英國大使ヨリモ本月三日同様申入ノ次第モアリ爾來本件ニ関シテハ帝國政府ニ於テ慎重ナル考慮ヲ加ヘタル処御承知ノ如ク元ト帝國海軍ハ主トシテ外敵防禦ノ標準ニ基ケルモノニシテ從テ其勢力ハ遠ク外征ヲ企ツルニ足ル如キ強大ナルモノニアサルノミナラズ現ニ膠州灣ノ封鎖及攻撃ノ為メニ相当ノ配備ヲ要シ又英國艦隊ト南方ニ於テ共同動作ヲ為ス為メ若干ノ軍艦ヲ分遣シテ現ニ英國艦隊司令長官指揮ノ下ニ置ケル外各方面ニ亘レル帝國商船航路ノ安全ヲ期センガ為メニ尠ナカラサル海軍

有スルモノト思考セラルルニ付帝國政府ニ於テ十分御考量アランコトヲ切望ス駐露英國大使ノ内話ニ依レハ英國政府ハ戰爭ハ長引クヘシトノ見込ヲ立テ平和締結ノ間際ニ間ニ合フ様徐ロニ兵員募集ヲ行ヒツ、アリトノコトナリ御参考迄申添フ

六一〇 九月 六日 在露国本野大使ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

英仏露三国共同シテ日本軍ノ歐洲派遣方申込決定ノ件

第四九〇号

往電第四七九号ニ関シ英仏大使ノ内話ニ依レハ英國政府ノ對案ニ基キ英仏露三国共同シテ日本國政府ニ申込ム事ニ決定シタル由ナリ

六一一 九月 七月 加藤外務大臣ヨリ
在露国本野大使宛（電報）

日本軍ノ歐洲派遣方提議ハ拒絶スル考ヘナル旨

回訓ノ件

第三七四号

貴電第四八九号ニ関シ元ト帝國軍隊ハ全ク護國ノ目的ノ為

力ヲ充當セザルベカラズ從テ此際東亜ノ海面ニ於テハ出来得ル丈ノ力ヲ尽シテ英國海軍ヲ援助シ又ハ之ニ代テ同盟國利益ノ保護ニ任スヘシト雖モ遠ク歐洲ニ我艦隊ヲ送ルカ如キハ実行上大ニ困難トスル所ナリ且又我海軍ノ任務ハ前述ノ如クナルヲ以テ夫レ以外ニ海軍ヲ使用セントスルニ對シテ國民ノ賛同ヲ得ルコト殆ント見込ナシト思料セラル就テハ貴官ハ以上ノ理由ニ基キ帝國政府ハ遺憾ナカラ英國政府ノ希望ニ応スル能ハサル旨可然同政府ニ申入レラレタシ本大臣ハ今九日右ノ趣ヲ在本邦英國大使ニ申通シタリ

六一三 九月 九日 加藤外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛（電報）

日本軍艦歐洲派遣謝絶ハ最終的決定ナル旨英國

大使ニ答ヘ置キタル件

第二〇五号

今九日日本大臣ヨリ在本邦英國大使ニ往電第二〇一号ノ通り申通シタル節本大臣ハ非公式ニ同大使ニ對シ英國政府ニ於テ海軍力ノ増援ヲ要スルコト甚タ急ナルニ於テハ東亜海面ニ遊弋セル同國艦艇ヲ歐洲方面ニ回航セシムルコトトシテハ如何カト思考ス又ハ現ニ英國艦隊司令長官指揮ノ下ニ置

ケル帝國軍艦二隻ノ外更ニ若干ヲ加フルコトモ為シ得ヘシ
我海軍ハ英國海軍ニ代テ同國ノ利益ノ保護ニ任スヘシ(往
電第二〇一号参照)ト言ヘルハ右等ノ場合ヲ意味スルモノ
ナリト語リタルニ同大使ハ膠州灣陥落ノ上ハ日本海軍ニモ
余裕ヲ生スルニ至ルヘシト思ハル、処今回日本政府決定ノ
次第ハ最終ノ決定ナリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ無論最終
ノ決定ナリト答ヘタリ然ルニ同大使ハ今回ノ戦役ニハ是非
共独逸國ノ海軍力ヲ全滅セシムルヲ要スルニ付交戦國ハ全
力ヲ尽クスコトヲ必要トス就テハ今後形勢ニ変化アラバ帝
國政府ハ如何ニ詮議セラルヘキヤト反問シタルニ付本大臣
ハ今後ノコトハ其場合ニ詮議スヘシ今日ノ回答ハ現下ノ状
勢ニ於テノ最終ノ決定ナリト答ヘ置キタリ右御含迄

六一四 九月九日 加藤外務大臣 會談
在本邦英國大使

日本軍艦及陸軍ノ歐洲派遣拒絕ニ関シ英國大使
ニ説明ノ件

尋テ英國大使ハ去三日本國政府ノ訓令ニ基キ同大使ヨリ申
出テタル地中海方面、日本海軍力分派ノ件ニ言及シ此際右
ニ対スル帝國政府ノ答弁ヲ聴クコトヲ得ヘキヤト述ヘタル

ルモ若シ在本邦露仏大使ヨリ本件申出方ヲ提唱シ来ルニ於
テハ之ヲ援助スル方可然旨同大臣ヨリ來電ニ接シ居ル趣内
告セリ

六一五 九月十一日 在英國井上大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日本軍艦歐洲派遣拒絕ニ付英國外務大臣了解
ノ件

貴電第二〇一号ニ関シ今日外務大臣ニ面會本使ヨリ篤ト
申入レタルニ同大臣ハ本件ニ付今朝在日本英國大使ヨリ電
報アリタルカ尚本使ノ説明ニヨリ事情ヲ能ク了解シタルヲ
以テ早速海軍大臣ニ申通スヘキ旨答ヘラレタリ

六一六 十月十七日 英國海軍大臣ヨリ
八代海軍大臣宛(電報)

日本海軍ノ協力ニ対スル謝意表明ノ件

(COPY)
October 17th 1914.
To His Imperial Japanese Majesty's Minister of
Marine.

ニ付大臣ハ本件ニ関シテハ既ニ井上大使ヘ電報シ同大使
ヨリ英國外務大臣ヘ回答方訓令セリトテ同大使宛往電第
二〇一号ノ趣旨ヲ語ラレタルニ同大使ハ右ハ帝國政府最終
ノ決定ナリヤト尋ネタルニ付大臣ハ然リト答ヘラレタルニ
大使ハ苟モ戦争状態ノ繼續スル限り飽ク迄独逸艦隊ノ全滅
ヲ期セサルベカラザルヘク何トカ繰合ハ付クマシキカト述
ヘタルニ付大臣ハ私見トシテ英國艦艇ヲ全部東洋方面ヨリ
引揚ゲ帝國海軍ニ於テ全然之ニ代ルコト、ナスモ一策ナル
ヘク或ハ又現ニ英國司令官ノ指揮ノ下ニ在ル日本軍艦ノ数
ヲ増加スルコトモ一法ナルヘシト述ベラレタルニ大使ハ膠
州灣陥落ノ後ハ日本海軍ニモ大ニ余裕ヲ生ズベシト云ヘル
ニ付大臣ハ其場合ノコトヲ今ヨリ予言スルコトヲ得スト答
ヘラレタルニ大使ハ今後ノ發展ニ因リ更ニ事情ヲ尽シテ御
相談致スコトモアルヘシトノ事ナリシニ付大臣ハ其時ハ其
時ノコトナリト答ヘタリ

右ノ序ヲ以テ英國大使ハ過日御話アリタル英國駐劄露仏両
國大使ヨリ日本陸軍歐洲大陸ヘ派兵ノ件ニ付英國外務大臣
ヘ申出タル次第ニ付テハ(去三日英國大使來訪ノ節大臣ヨ
リ右派兵ノ件ハ到底不可能ト思料スル旨述ヘラレタルコト
アリ)同大臣ニ於テハ閣下ノ御意見ハ御尤モナリト思考ス

At this crucial stage in the war, I desire to ex-
press on behalf of the British Admiralty and
Royal Navy our deep sense of the efforts and
energy with which the Japanese Navy is sustain-
ing the cause of their ally. Japanese ships and
squadrons are everywhere giving us help of in-
valuable character in the search for the enemy's
ships, in the protection of trade and in the convoy
of troops to the decisive theatre of conflict. All
this apart from the great object of the extermina-
tion of the main German base in the Pacific.

Churchill,

First Lord of the Admiralty.

六一七 十月十九日 八代海軍大臣ヨリ
英國海軍大臣宛(電報)

英國海軍大臣ヨリノ謝意ニ対シ回答ノ件

October 19th, 1914.
To the First Lord of the Admiralty.
"On behalf of the Imperial Japanese Navy, I
tender my warmest thanks for your sincere and
cordial message. It is a matter of utmost satis-
faction to us both that perfect harmony and under-

standing exist everywhere between the two Allied Navies, which strike the true note of the main object of the compact and, which will certainly tend to hasten the attainment of the ultimate goal. I earnestly hope that it will not be long before this end is successfully attained."

Vice Admiral Yashiro,
Minister of Marine.

六一八 十一月三日 在英國井上大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日本軍派遣要請ノ英國輿論ニ関スル対策ニ付意
見上申ノ件

第四一二号(極秘)

近刊「コンテムポラリー・レビュー」ニ於テ Dr. Dillon
ノ時局ニ関スル論評中「英帝國力現ニ造リツツアル軍隊ハ
早クモ来年上半年期ナラデハ出征ニ適スルニ至ラス而カモ今
ヨリ半年後ニ於ケル百万ノ援兵ハ此際ニ於ケル五十万丈ノ
価値ナキコト明瞭ナリ時局ハ刻々急進シツツアリ吾人ハ宜
シク我同盟國タル日本ト協商シテ其貴重ナル協力ヲ取付ク

六一九 十一月四日 加藤外務大臣 会談
在本邦英國大使

英國ヨリノ日本軍歐洲派遣要請ニ対シ熟考ヲ要
スル旨語リタル件

附屬書 十一月二日付英國外務大臣ヨリ在本邦同國

大使宛電報(一)(二)

日本軍ノ歐洲派遣方要請ニ関シ訓令ノ件

二 十一月四日英國大使提出ノ同國外相ヨリ同

大使宛電報

英國海相ヨリハ代海相ヘ伝言ノ件

三 十一月三日付英國外相ヨリ同國大使宛電報
写

土耳其ノ開戦予備行為ニ対スル英國ノ計画
ニ関スル件

大正三年十一月四日英國大使来省先ツ別紙甲号ノ一英國外
務大臣ヨリ再度日本軍ノ歐洲派遣ヲ促ス旨ノ来電写ヲ出シ
曩ニ本件ニ関シ御交渉ニ及ヒタル節トハ大ニ局面モ變化シ
来リタルコトモアリ此際日本軍ノ来援ガ英國軍ニ取リ真ニ
非常ノ利益ナルヘキコトハ申迄モナク且自分ノ考ニテハ日
本軍ニ取リテモ其来援及戦勝ニ依リ歐洲ニ於ケル戦争ノ形
勢ヲ一變シ以テ戦争終局ノ時期ヲ早カラシムルコトトナラ
ハ独リ日本軍ノ名譽愈加ハリ帝國ノ声望益世界ニ重キヲナ

ルコトトスベク精銳ナル五十万ノ日本兵ハ能ク現下ノ戦局
ヲ一転スヘキハ言ヲ待タサル所ナリ英國ハ速ニ之カ為日本
帝國ト交渉ヲ開始スルヲ要ス時局ニ対スル此際ノ施設中第
一ニ有効ノ急務ハ実ニ茲ニ在リ」ト論述シ「フォートナイト
リ、レビュー」ニモ右ノ趣意ヲ以テ政府ノ決斷ヲ促ス論
文ヲ掲ケタリ其他諸新聞紙上ニモ右様ノ投書ヲナスモノ往
々有之斯ノ如ク日本軍隊ヲ歐洲ヘ招待スルノ論漸次當國論
壇ニ於ケル直面目ノ主張トナリツツアリ今後時局ノ發展ニ
伴ヒ追々勢力ヲ得テ遂ニハ當國政府ヲ動カシ其結果帝國政
府ニ於テ我軍隊派遣ノ依頼ヲ當國ヨリ受クルニ至ルカ如キ
絶無ヲ保シ難ク右様ノ場合帝國ノ立場ニ鑑ミ之ヲ拒絕セサ
ルヘカラストセハ勢當國ノ感情ヲ害スルノ嫌アリ旁々右様
ノ交渉ヲ受クルニ至ラサル間ニ宜敷此種論者ノ声援ヲ冷却
セシムル為メ此際本件論旨ノ到底実行不能ノ空論ニ過キサ
ルコトヲ當國公衆ニ了解セシムル様何等カノ方法ニヨリ適
當ナル通信ヲ東京ヨリ發セシムルコト得策ト思考セラル御
参考迄ニ申進ス

スニ至ルヘキノミナラス之ニ依リテ日本ハ戦後ニ於ケル列
國間ノ商議ニ一層有力ナル發言權ヲ有シ得ルコトモナル
ヘク加之歐洲ヘノ派兵ハ日本一般民間ニ於テモ歡迎スル所
ナルヘキニ付何卒帝國政府ニ於テ本問題ヲ再考セラレ英國
政府ノ提議ニ応セラレンコトヲ切望スト述ヘ別紙甲号ノ二
ハ英國外務大臣来電末尾ノ一節ヲ別ニ記シ持参シタル次第
ナリトテ之ヲ差出シ大臣ノ意見ヲ求メタリ

大臣ハ之ニ対シ本件ハ何分極メテ重要ナル問題ナレバ帝國
政府ニ於テハ十分熟考スルニ非サレハ回答ヲ与フルコトヲ
得サルヘシ又自分一己ノ意見ヲ即座ニ述フヘキ限ニモ在ラ
スト思考スレトモ只今述ヘラレタル内ニ付一言シ置カザル
ベカラザルハ日本ニ於ケル一般民間ノ意向ニ関スル点是ナ
リ成程二三ノ新聞ニ歐洲派兵ヲ希望スルノ論顯ハレタルハ
事實ナレトモ是等ハ何レモ重要ナル新聞ニハ非ス右ノ論ハ
何等有効ナル民論ヲ代表スルモノト云フヘカラス加之自分
ノ考フル所ニ依レハ之ト反対ニ一般ニ教育アリ思慮アル階
級ハ諸種ノ關係ヨリ恐ラク歐洲派兵ヲ歡迎セサルヘシ此点
丈ハ不取敢一己ノ意見トシテ申述置ク次第ナリト答ヘラレ
タリ

次ニ英國大使ハ明年早々英國海軍「バルチック」海進入ノ

計画アリ其際迄ニハ青島モ陥落シ外洋ノ独逸艦隊モ撃破セラルヘキニ付日本海軍ノ勢力ヲ以テ英國海軍上述ノ計画ヲ援助セラレタキ旨希望スル趣英國海軍大臣ヨリ帝國海軍大臣ヘノ極秘伝言ノ次第別紙乙号写ノ通英國外務大臣ヨリノ来電ヲ提出シタルニ付大臣ハ右ハ早速海軍大臣ニ伝達スヘキ旨ヲ答ヘラレタリ

終ニ英國大使ハ土耳其ノ開戦予備行為ニ対スル英國政府ノ計画ニ関シ別紙丙号同國外務大臣来電写ヲ大臣ニ手交シ雜談ノ上退出セリ

(附屬書一)

十一月二日附英國外務大臣ヨリ在本邦同國大使宛電報写
日本軍ノ歐洲派遣方要請ニ関シ訓令ノ件 (一)(二)

(一)

甲号ノ一

Private and Secret.

Telegram from Sir Edward Grey.

November 2. 1914.

It is two months since you reported to me your conversation with Baron Kato as to a suggestion that Japanese troops should be despatched to

for the expenditure which could be entailed by the despatch of Japanese troops.

(一)

甲号ノ二

Can you discreetly and informally put these considerations before Baron Kato, and ask His Excellency whether he thinks that the Imperial Government might be willing to reconsider their decision?

(附屬書二)

十一月四日英國大使提出ノ同國外相ヨリ同大使宛電報写

英國海相ヨリ八代海相ノ伝言ノ件

乙号

Private

The First Lord of the Admiralty is anxious to transmit the following most secret message to the Japanese Minister of Marine:—

“We hope early in the year to be strong enough to increase the severity of our naval pressure on the Germans by entering the Baltic.

“By the date in question not only will Tsingtao

Europe. We quite understood the reasons why the Imperial Government were not then prepared to entertain the idea and we did not press the question. Now, however, the Japanese Government doubtless realize that everything depends upon a decisive result being attained in Europe, and, as this is the paramount consideration, may be ready to reconsider their earlier decision.

A secondary consideration is that new demands upon British forces may be entailed by the participation of Turkey in the war. It is true that we shall have considerable new and efficient forces ready in April and May, but much may happen ere then, and we ourselves can do little more than keep up our present strength in the field. The addition of a Japanese forces in this critical interval would have a very important effect on the main operations of the war on which everything depends.

If the Imperial Government were willing to entertain this idea, the fall of Tsing-tao might be an opportune moment to make a new departure. His Majesty's Government would be prepared to provide

have been taken but the outlying German cruisers will probably have been destroyed.

“We should like our Japanese Allies to look forward to the above situation with a view to considering how the same powerful aid which they are supplying in the early period of the war may be caused to play a decisive part in its conclusion.”

Please ask the Minister for Foreign Affairs if he will be so kind as to give this message to the Minister of Marine.

British Embassy,

TOKYO.

November 4th 1914.

(欄外註記)
「本書ノ同日小池政務局長ヲシテ八代海相ニ手交セシメタ

リ 高明」

(附屬書三)

十一月三日附英國外相ヨリ同國大使宛電報写

土耳其ノ開戦予備行為ニ対スル英國ノ計画ニ関

スル件

丙号

Telegram from Sir E. Grey. London dated Nov. 3.
You should inform the Minister for Foreign

Affairs that in consequence of preparations being made to attack Egypt, we have taken such action as we consider necessary to prevent Akaba from being used by Turkey as a base of aggressive operations.

As the Turks are on the point of closing the Shat-El-Arab and taking other hostile steps in the vicinity, we are also taking action at the head of the Persian Gulf.

We should however be prepared to cease hostilities if Turkey sends away the German Military and Naval Missions. I also propose to defer issuing any proclamation of a British Protectorate over Egypt until the rupture with Turkey becomes quite irrevocable, provided that the internal situation there enables us to carry on without making any change in the status.

British Embassy,
TOKYO.

November 4th 1914.

兎ニ角方ニ陸軍ニテ考量中ナレハ追テ御返事致スベシト答
ヘラレタリ

以下略

(附屬書)

別紙

十一月六日附英国外務大臣ヨリ在本邦同国大使宛電報写

日本軍歐洲派遣ノ場合ニ於ケル其兵力量費用等

ニ関スル件

Telegram from Sir E. Grey, dated London,
November 6th, 1914.

Our desire is that, if the Japanese Government are willing to entertain the idea, a Japanese force should be sent to take part in the main operations of war in France, Belgium and Germany in the same way as our Army is doing, and to fight along-side of our soldiers on the continent of Europe.

The Japanese force should, of course, be of sufficient numbers to exercise an appreciable influence on the attainment of decisive result.

With regard to the cost at the expedition we should be prepared to pay all expenses; but as we

六二〇 十一月七日 加藤外務大臣 会談
在本邦英国大使

日本軍歐洲派遣問題及小銃彈藥ニ付会談ノ件

附屬書 十一月六日附英国外務大臣ヨリ在本邦同国大使宛電報写

日本軍歐洲派遣ノ場合ニ於ケル其兵力量費用等ニ関スル件

大正三年十一月七日英国大使来省過日(十一月四日)御話ノ次第不取敢本国政府へ報告シ置キタル処(右会谈記録所載ノ外雑話中ニ大臣ヨリ英国政府ノ要求ハ表面ニハ明瞭ニ非ザルガ今回モ歐洲ヘノ派兵ヲ望マルコトナラン又一体何程ノ兵ガ入用ナルコトナラン等質問シ又費用負担、其他死傷者救恤等面倒ナル問題モアルヘシ等語ラレタリ)別紙写ノ通來電ニ接シタルトテ之ヲ提出シタルニ付大臣ハ委細了承ノ旨ヲ答ヘラレタリ

次ニ大臣ヨリ昨日御申越ノ小銃彈藥ノ件ハ不取敢御返事致置キタル通過日陸軍大臣ヨリ何分繰合セ附キ兼スル旨閣下へ御話スル様依頼アリ彼是取紛レ延引シ居リタル処へ御手紙ニ接シタルヲ以テ兎ニ角今一応陸軍ニ照会シ置キタルト述ヘラレタルニ大使ハ電報ニ接シ御五月蠅シトハ存シツツ更ニ申出デタル次第ナリト述ヘタルニ付大臣ハ結果如何ハ

have no information as to the scale on which pensions and provisions for soldiers who may be incapacitated are to be fixed, we could not promise to pay the whole of these, although we should be ready to give a grant in air thereof.

British Embassy,

Tokyo.

November 7, 1914.

(欄外註記)

「大正三年十一月七日英国大使持參大臣ニ手交」

六二一 十一月十四日 加藤外務大臣 会談
在本邦英国大使

日本軍ノ歐洲派遣及小銃供給不可能ノ旨回答ノ件

附屬書 十一月十四日付加藤外務大臣ヨリ在本邦英国大使へ手交セル電書

附記一 日本軍ノ歐洲派遣問題ニ関スル八代海軍大臣意見

二 同右島村軍令部長意見

三 同右大島陸軍次官意見

四 十一月九日大島陸軍次官ヨリ加藤外務大臣

へ送附セル日本軍歐洲派遣問題ニ関スル対

英回答要旨

十一月十四日英國大使來省會談ノ要領

大正三年十一月十四日英國大使大臣ノ求ニ応シ來省日本軍歐洲ヘ派遣ノ件ニ關スル別紙寫ノ通ノ回答覺書ヲ手交セラレ大使ノ一統シテルヲ待チ過日英國外務大臣ヨリ來電ノ次第ハ何分重大ナル問題ナルヲ以テ帝國政府ニ於テモ篤ト考量ヲ加ヘタル為今日迄御返事致兼ねタル次第ナルカ此覺書ニテ御覽ノ通帝國政府ニ於テハ根本主義ニ於テ乍遺憾歐洲出兵ノ提議ニ応スルコトヲ得スト述ヘラレタルニ大使ハ主義ニ於テ御不同意トアラハ方法ニ屬スルコトヲ云々スル必要モナキ訳ナレトモ先日モ一寸申上タル通り日本軍派遣ノ場合ニハ費用ハ無論英國側ニテ負担スルノ趣旨ナリト述ヘタルニ付大臣ハ主義上派兵ハ不可能ナル次第ナレハ費用ノコトハ問題ニ成ラサルガ其費用ト云フコトモ我陸軍當局ノ概算ニ依レハ中々容易ノコトニ非ズ何セヨ十軍團ヲ送ラサルベカラストセハ之カ輸送ニ合計約二百萬噸ノ運送船ヲ要スヘク一日一噸五円ト見テ之ノミニ一日千萬円ヲ要スルコトナリ軍ノ給与、銃器彈藥ニ対スル費用ヲ合スレハ平均一人一ヶ月約三百円ヲ要スヘク合計一ヶ月一億貳千萬円トナルト述ヘラレタルニ大使ハ此問題ハ教育アル階級一般

(附屬書)

十一月十四日附加藤外務大臣ヨリ在本邦英國大使ヘ手交セラル覺書

Private and secret.

MEMORANDUM.

In regard to the suggestion confidentially made by Sir Edward Grey for the dispatch of Japanese forces to Europe, Baron Kato begs to submit to His Excellency the British Ambassador the following observations.

The Imperial army is organized, as His Excellency the British Ambassador is well aware, on a conscription system and on the principle of universal military service. Its sole object is national defence. The dispatch of the Imperial army far away from home for purposes other than those partaking of the nature of national defence is therefore incompatible with the fundamental principle of its system and was never contemplated in its organization.

Setting aside the question of principle and considering the proposal in its practical aspect, the Imperial military authorities are of the opinion

ノ所言ヲモ聴カレタルヤト云ヘルニ付大臣ハ教育アル階級一般ノ意見ハ即チ派兵反對ニ一致シ居レリ帝國政府モ國民一般モ英國政府ノ需要ニ同情シ居ルコトハ勿論ナレトモ帝國政府ハ帝國々防全般ノ根本ニ於テ派兵ヲ実行スルコトヲ得ルノ地位ニ在ラサルヲ如何セント告ケラレタルニ大使ハ夫レハ誠ニ遺憾ノコトナルカ然ラハセメテ例ノ小銃ノ融通丈ニテモ願ハレマシキヤト云ヘルニ付大臣ハ夫レハ陸軍省ニテハ最早何分余裕ナキ趣ナルモ折角ノ御申出故尚考慮ヲ求メ居ル次第ナルガ此上御望ニ応スルニ於テハ或兵ニハ銃器ヲ持タセザルコトトセサルヘカラサル位ニテ斯ルコトハ行ヒ難シトコトナリト答ヘラレタルニ大使ハ此際曩ニ願ヒ置キタル二十五萬挺御繰合せ出來マシキヤト云ヘルニ付大臣ハ二十五萬挺ハ愚カ極メテ少数ニテモ最早繰合せ困難ナリトコトナルモ尚ホ陸軍省ノ熟慮ヲ求ムヘント答ヘラレタリ

次ニ英國大使ハ先日ノ軍艦派遣ノ件ハ如何相成タルヤト尋ネタルニ付大臣ハ其事ハ早速海軍大臣ニ通シ置キ未タ確定的回答ニ接セザルガ右伝達當時ノ話ニ依レハ到底ムシカシカラントコトナリキト答ヘラレタリ

that for the Imperial army, to participate in the war of the present magnitude and scale with a decisive effect, a force of not much less than ten army corps will have to be sent to Europe. This means the mobilization and dispatch of the entire military forces of the Empire and the country will, as the result, be denuded of its defences. For its transportation vessels to the amount of something like two million tons will have to be fitted out, besides a large supply of ships which will be required to maintain the rear connection for the transportation of reserves to make up the wastage, and of arms, ammunition, provisions, and other munitions of war. These considerations together with the difficulty of obtaining requisite funds and materials make such a gigantic undertaking well nigh impossible.

Further in order to mobilize the entire military forces and dispatch several hundred thousand soldiers abroad the patriotic feelings of the Japanese nation must be raised to the highest pitch. A foreign expedition which was never contemplated in the organization of the Imperial army and is,

moreover, almost impracticable, can be carried out only when the national feeling has reached white heat. Judging from the present state of affairs, it would be hopeless to look for the general consent of the nation in this matter and the Imperial Government cannot, upon laying it before the imperial Diet, count upon its approval.

While the Imperial Government have considered the matter with the most profound sympathy and sincerity in view of the grave situation prevailing they are to their extreme regret unable, in the face of these great and insuperable obstacles to its realization, to see their way to give satisfactory response to Sir Edward's suggestion, and Baron Kato sincerely hopes that he will understand the circumstances as a above set forth.

Foreign Office, Tokio,
November 14, 1914.

(右和文)

日本軍隊ノ歐洲派遣方ニ付サー・エドワード・グレーヨリ内密ニ申出ラレタル提議ニ関シ加藤男爵ハ英国大使閣下ニ對シ左ノ通開陳セムト欲ス

海外遠征ハ唯国民ノ感情カ白熱ニ達シタルトキニ於テノミ之ヲ決行スルコトヲ得ヘク之ヲ現下ノ事態ニ照スニ本件ニ関シ国民一般ノ同意ヲ得ルコト覺束ナク且帝國議會ノ協賛ヲ求ムルモ之ヲ期待シ難シ

帝國政府ハ現下ノ重大ナル事態ニ鑑ミ絶大ノ同情ト誠意トヲ以テ本件ヲ考量シタルモ其實行ニ関スル是等排除スヘカラサル大障害ヲ顧慮スルトキハサー・エドワードノ提議ニ満足ナル回答ヲ与フルノ方法ナキヲ甚タ遺憾トス而シテ加藤男爵ハサー・エドワードカ上陳ノ事情ヲ了解セラレムコトヲ誠意冀望スルモノナリ

(附記一)

八代海軍大臣意見

帝國海軍ノ主力ヲ歐洲方面ニ派遣シ難キ理由

一 帝國ノ海軍ハ本来単ニ本国領土ノ防衛ノミヲ目的トシテ其兵力ノ標準ヲ定メタルモノニテ其目的ニ對シテスラ尚ホ兵力ノ不足ヲ感ゼル処ナリ今若シ其主力ヲ遠ク歐洲方面ニ派遣スルトキハ本国ノ防備ハ全ク空虚トナリ万一時局ノ變化ニ依リ東洋ニ第二ノ敵ヲ見ルニ至リタルトキハ如何トモスルコト能ハザルノミナラス不幸ニシテ此派

英国大使閣下ノ知悉セラルル如ク帝國軍隊ハ徵兵制度及国民皆兵ノ主義ニ基キ組織セラレ其唯一ノ目的ハ国防ニ在ルカ故ニ国防ノ性質ヲ完備セサル目的ノ為帝國軍隊ヲ遠ク国外ニ出征セシムルコトハ其組織ノ根本タル主義ト相容レサル所ニシテ帝國軍制ノ全然予見セサル所トス主義ノ問題ハ姑ラク之ヲ措キ之ヲ実行ノ方面ヨリ考究スルニ帝國陸軍当局者ノ意見ニ依レハ帝國軍隊カ現ニ進行中ノ如キ大規模ノ戦争ニ参加シテ決勝の效果ヲ奏スルニハ十個軍団ヨリ劣ラサル軍勢ヲ歐洲ニ派遣スルヲ要スヘシ之レ帝國軍隊全部ノ動員及派遣ニ外ナラサルヲ以テ其結果帝國ハ其防禦ヲ缺如スルニ至ルヘシ而カモ右ノ軍隊ヲ輸送スルニハ大凡二百萬噸ノ船舶ヲ準備セサルヘカサルノミナラス其外ニ尚損傷部隊ノ補充並銃砲彈藥及糧食其他必要ナル軍需品ノ輸送ニ関スル後方聯絡ヲ維持セムカ為多數ノ船舶ヲ必要トスヘシ是等ノ事情ハ所要ノ資金及物資ヲ得ル困難ト相俟テ斯ル極メテ大規模ノ計畫実行ヲ殆ント不可能ナラシム

加之全軍隊ヲ動員シ數十萬ノ軍兵ヲ外國ニ出征スルニハ帝國国民ノ愛國心ヲ最高調ニ昇騰セシメサルヘカラス蓋シ帝國軍制ノ未タ曾テ予見セス且殆ント実行不可能ナル

遣艦隊ノ大部ヲ歐洲方面ノ海戰ニ亡失スルトキハ全ク其補充ノ途ナクシテ戰後ノ国防ニ大欠陥ヲ生シ外交上非常ノ窮境ニ立タサル可ラス斯クノ如キハ国防ノ本旨ニ戾リ國是ノ方針ニ違ヒ到底國論ノ許サザル処ナリ

二 帝國ノ海軍ハ此數年前ヨリ其改造ニ着手シ現下其半途ニアリテ未ダ新式ノ艦艇ヲ以テ艦隊ヲ編成シ得ルニ至ラズ僅ニ不齊一ナル新旧艦艇ヲ混用シテ一時ヲ弥縫セルニ過キズ故ニ今次ノ對独聯合作戰ニ於テモ單ニ東洋海面ノ安固ヲ保証シ得ルニ止リ已ニ南太平洋及印度洋方面等ノ作戰ニ對シテハ著ク其負担ノ重キヲ感ゼリ斯クノ如キ不完全ナル海軍ヲ以テ歐洲方面ニ於ケル真面目ノ海戰ニ從事セシムルハ帝國海軍々人ニ對シ政府ノ忍ブ能ハサル処又帝國海軍ノ名誉ヲ維持スル上ニ於テ到底軍人ノ快諾ヲ得ルコト難シ

三 帝國財政ノ現状ハ固ヨリ富裕ナラスシテ永ク多大ノ戰費ニ堪ユルコト難シ然ルニ遠ク出征艦隊ヲ歐洲方面ニ派遣スルトキハ其戰費莫大ニシテ到底其支出ノ方途ヲ求ムル能ハス去リトテ此戰費ヲ支那ニ仰クコトハ帝國ノ体面ニ關係スルヲ以テ國民ノ同意ヲ得ルノ望ナシ

右ノ三理由ニ依リ帝國海軍主力ノ歐洲派遣ハ絶対ニ之ヲ拒

絶セサルヲ得ス然リト雖モ万一我同盟国ノ国防カ危急ニ瀕スル場合アルトキハ万難ヲ排シテ之ニ赴援スルヲ辞スルモノニアラズ(了)

(附記二)

島村軍令部長意見

今回ノ歐洲ノ戦争ハ全ク我国ト關係ナキ事ヨリ起リ延テ英國ノ之ニ参加セル事由ニ至テモ亦等シク我国トハ没交渉ノ事ニ属シ随テ之ニ関シテハ我国ハ英國ヨリ何等ノ相談ヲ受ケシ事ナシ故ニ若シ独国ニシテ東洋ニ其艦隊及根拠地ヲ有セサリシナラハ此度ノ戦争ハ東洋ニ波及スルコト無ク随而我国ハ遙カニ中立ヲ守リテ戦争ノ經過ヲ傍觀スルニ過ギザリシナルヘシ

然ルニ独国ハ東洋ニ艦隊及其根拠地ヲ有セシカ故ニ戦争ハ自然ノ勢トシテ東洋ニモ及ヒ終ニ我國モ英國トノ同盟ノ義務ヲ尽ス為メニ起ツノ止ヲ得サルニ至レルモノナリ

然ルニ膠州灣ハ既ニ我手ニ落チ其疾ク該地ヲ去リテ洋中ニ跳梁セル艦隊モ日英艦隊ニ依リ漸次其運命ヲ蹙メラレツ、アルノ状況ナルカ故ニ早晚之ヲ全減スルコトヲ得ヘシト信ス果シテ然ラハ其曉ニハ復タ東洋ニ於テ日英兩國ノ利益ヲ

ク運命ノ為ニ予期ノ勝利ヲ得ルコト能ハストノ掛念モアルヘク殊ニチャーチル氏ノ説ノ如キ大胆ナル作戰ヲ決行セントスレハ其艦隊勢力ノ不足ヲ感スヘキハ無理ナラス況ヤ海戦ノ勝敗ハ直ニ英國ノ存亡ヲ決スルモノナルニ於テオヤ要スルニ当局者ノ立場ヨリスレハ今日英國ノ位置ハ局外者又ハ英國一般ノ公衆ノ考ヘ居ルカ如ク又演説及新聞ニテ当局者カ声明スルカ如クニ内心ニハ樂觀シ居ラス寧ろ國ノ存立不安ノ状態ニ在リト感シ居ルヤモ料レズ

若シ右ノ觀察ニシテ誤ラストシ簡様ノ事ヨリシテ今回ノ如キ「チャーチル」氏ノ申シ込アリタルモノトセハ単ニ吾々軍人タルノ立場ヨリシテハ大ニ同情ヲ表シテ一臂ノ力ヲ添ヘ同盟國ノ危急ヲ救ヒ度トノ念モ起ラザルニ非ルノミナラズ晴レノ場ニテ同盟艦隊ト相位シテ世界未曾有ノ大海戦ヲ戦フコトハ吾人ノ最愉快ニ感スルトコロナリ

然レトモ靜ニ國家ノ将来ヲ慮ルトキハ単ニ此ノ如キ情義若クハ感興ニ基キテ此ノ如キ大事ヲ決スヘキモノニアラス國際關係ノ屢々急變シ意外ナル突發事件ノ為メニ開戦ノ止ムナキニ至ルコトアル事實アルニ想到セハ差当リ我國ノ存亡ニ関セサル歐洲戦争ニ我唯一ノ特トスル主力艦隊ヲ送り其運命ヲ賭スルコトハ現ニ甚タ不充分ナル我海軍ノ勢力ヲ一

脅カスモノナキニ至ルノミナラズ南北太平洋及印度洋ヨリ先ツ全ク敵ノ勢力ヲ一掃スルノ結果トナリ我國ハ同盟條約規定ノ義務以上ニ其ノ義務ヲ尽シタル姿トナル故ニ若シ英國ヨリ何等請フトコロナキ以上ハ我國ハ進テ歐洲ノ戦争ニ干渉スルノ必要ナク唯袖手シテ其結局ヲ待ツテ可ナリトス

然ルニ今回チャーチル氏ヨリ申込ミ来リタルトコロニ依レハ英國ハ此上ニモ尚ホ大ニ我助力ヲ期待セルモノ、如シ其play a decisive part スル為メニ Powerful aid 云々トアルハ察スルニ少クトモ我金剛比叡ノ兩艦或ハ更ニ一步ヲ進メテ河内摂津ノ兩艦ヲモ加ヘタルモノ即チ我唯一ノ所謂努級艦隊ノ半部若クハ全部ヲ歐洲ニ派遣シ實ヒ度トノ希望ヲ暗示セルモノナラント解釈ス蓋英國艦隊(本国ニ在ルモノ)ノ全部ハ獨国艦隊ノ全部ヨリ遙ニ優勢ナルハ事實ナリ然レトモ努級艦ニ在テハ此優勢ノ度合左程大ナルモノニアラス且ツ戦争ハ屢々運命ノ為メニ左右セラル、コトアルカ故ニ兩國艦隊決戦ノ時機ニ至ルマデニ或ハ機械水雷ニ罹リ或ハ潛航艇ノ奇襲ヲ受ケ英國艦隊ハ漸次其勢力ヲ殺滅セラル、コトナキヲ保スル能ハス又決戦ニ至リテモ(此決戦ノ時期ハ主トシテ獨国ノ意志ニ依リ決セラルヘシ)等シ

(紙貼)
層薄弱ナラシムルノ恐アリテ近キ将来ノ国防上甚タシキ危険ヲ感スルニ至ルヘシ故ニ仮令當分ノ間新ニ我國ト干戈ヲ交フルカ如キ國アリト予想シ得ストスルモ(英國側ノ目ヨリ見レハ此ノ如キコトハ決シテアリ得ヘカラズトナシ其様ナ事ヲ顧慮セス此際ハ一日モ早く目下ノ敵タル獨乙ヲ屈服セシムルコトガ日本ノ為メニモ最安全ナル策ナリトノ考ヲ有スルコトハ必然ナラン)右ノ見地ヨリシテ此際有力ナル艦隊ノ運命ヲ賭シテマデモ條約ノ義務以外ノ情義ヲ尽サンガ為メニ助力ヲ与フルカ如キコトハ断シテ謝絶スルヲ可トス況ンヤ吾人觀ル所ニ依レハ英國艦隊ハ確ニ優勢ナルカ故ニ甚シキ失策ヲ為サ、ルトキハ吾方助力ヲ与ヘストモ決シテ独逸艦隊ノ為メニ敗ヲ取ルガ如キコトナキハ確信シ得ラル、ノミナラズ(仮令日本海々戦ノ如キ勝利ヲ得ル能ハストスルモ)獨国東洋艦隊全滅ノ後ハ英國ハ其支那東印度及濠洲艦隊ノ有力ナル艦船ハ總テ本国ニ召集シ益々本國艦隊ノ優勢ヲ確保シ得ルニ於テオヤ

且ツ是ハ聊カ英國ノ利己心アルヲ猜疑スル嫌アルモ我國ノ利益ヲ思フカ為メニ一言セサルベカラザルコトハ仮ニ歐洲戦争ニ我有力艦隊ヲ送リテ英國ニ多大ノ助力ヲ与ヘタリトセンニ事過キタル后ニ英國ハ果シテ之ニ對シテ相當ノ戰果

ノ割前ヲ我國ニ与フヘキヤ否甚タ疑ナキ能ハス成程或ハ文書ニ於テ或ハ言語ニ於テ有ラン限りノ御世辭ヲ述フルコトハアルヘキモ實際ノ利益問題ニ至ツテ種々尤ラシキ口実ノ下ニ我有望スルコトヲ阻止スルカ如キ事ナキヤ（例セハ南洋諸島ヲ取ルニシテモ表面之ニ反対セズ米國ヲ「ダシ」ニ遣ヒ日本ノ要求ハ尤ナレトモ之ガ為メニ米國ノ猜疑ヲ買ヒ永遠ニ日本ノ不利ヲ来タサザルニアラズヤト云フカ如キ口実ノ下ニ却テ之ヲ濠洲ニ讓ラシメントスルカ如キ）亦甚タ疑ナキ能ハズ、夫レノミナラズ喉下過クレハ暑サ忘ルルノ比喩ノ如ク期年ナラズシテ感謝ノ心モナクナリ殊ニ東洋ニ在ル英人ノ如キハ我發展ニ嫉妬心ヲ起シ感謝ドコロニアラズ英國主トシテ独逸ノ根底ヲ覆ヘシタル為メニ日本ハ単ニ微力ヲ尽シテ多大ノ利益ヲ東洋ニ獲得シ得タルナリトテ却テ恩ヲ我ニ売ルガ如キ言動ヲナスニ至ルヤモ計ラレス尤是ハ前記ノ如ク甚タ英國人ノ心事ヲ疑フノ嫌アリテ面白カラサルコトナレトモ我國ノ将来ニ慮ルトキハ是等ノ事モ一考セサルヘカラズト思惟ス

上述シ来レルガ如キ次第ナルガ故ニ相当ノ辞令ヲ以テ体善ク「チャーチル」氏ノ申込ヲ謝絶スルコト得策ナリ此挨拶中ニハ左ノ意味ダケハ含マセテ可ナラン

ヲ我ニ与フルコト等ノ如シ）ヲ得ルコト緊要ナリ然レトモ是レハ後ノ問題ナリ差当リノ所ハ彼ニ断念サセルカ如キ辞令ヲ以テ謝絶スルヲ上策トス

右島村意見

(貼紙)

「英國ハ若シ我努級艦ヲ派遣スルコト能ハサレハ旧式艦隊ニテモ可ナリトノ意志アルヤモ知レサレドモコレ逆モ我海軍ニテハ国防上頗ル苦痛ヲ感スルノミナラズ仮リニ之ヲ送ルトセハ到底晴レノ場所ニテ *decisive part* ヲ *play* スルコト能ハサルカ故ニ必ス某所ノ警備トカ陸軍運送船ノ護衛トカ或ハ又土耳其艦隊ノ監視トカ云フカ如キ役割ニ用イラルル可ク此ノ如キコトニテ我士卒ハ決シテ好感ヲ懷カス寧ロ不平ニ堪ヘサル感ヲ起スベク左レハトテ之ヲ晴場所ニ使フコトトセハ独乙努級艦隊ト遭遇セル場合ニハ如何ニ勇戦スルモ敗戦ハ免レズシテ我帝國ノ名声ヲ失墜スルノ結果ノミニ終ルヘシト思惟ス」

(附記二)

大島陸軍次官意見

大正三年十一月六日

一〇 日本軍歐洲派遣ニ関スル交渉一件 六二一

一、艦隊ニ在ル海軍々人ハ其立場ヨリシテ武士道ヲ重ンスル為メニ同盟國ノ危難ニ際セハ進ムテ之ニ赴クコトハ辭セズトノ意気込ハ常ニ有シ居ルコト

一、然シナガラ主力艦隊ノ仮令一部ナリトモ戦争（歐洲）ニ送ルコトハ左ナキダニ不足ヲ感ジ居ル我艦隊ノ勢力ヲシテ一層薄弱ナラシメ國民一般近キ将来ヲ慮リテ甚シク不安ヲ感シ政府ハ之カ為メニ非常ノ困難ニ陥ルヘキコト

一、東洋独艦隊ノ全滅ノ咄ニハ英國ハ其支那、東印度濠洲艦隊ノ有力ナルモノハ総テ引揚ケラルヘキカ故ニ若シ要スレハ之等ノ海面ニ日本ノ巡洋艦ヲ派遣シテ商船通路ノ安全ヲ期スルコトハ決シテ辭セザルコト

以上

爰ニ附言スヘキコトハ右ノ挨拶ヲ為シタル後チ英國ハ真面目ニ其危険ニ瀕セルコトヲ告白シ来リ我助力ヲ歎願スルト云フ程ナレハ更ニ一考ヲ費スモ可ナラン此時ハ英國ニ向ヒ先ツ相当ノ保証（例セハ若シ将来米國ト日本ト開戦ノ時ハ我ニ助力スルコト派遣軍艦戰爭中ニ廢艦トナルカ如キコトアレハ英國最近ノ同級艦ヲ兵器其他一切ト共ニ我ニ無代価ニテ譲リ渡スコト戰果ノ分ケ前ニ関シテ何カ具体的ノ利益

帝國ハ歐西出兵ニ関スル英國ノ内請ニ応シ難シ

理由

出兵ヲ可トスル理由

一、帝國ハ英露仏以下ノ諸國ト共ニ共同ノ敵ニ対ス故ニ聯合軍危機ニ瀕スレハ之ニ赴援スルノ誼アリ

一、帝國軍ヲ歐西ニ出スハ帝國ノ優越ナル能力ヲ世界ニ顯彰シ平和克復ニ方リ列國會議ニ於ケル帝國ノ發言權ヲ益有力ナラシムルノ利アリ

一、独逸ヲシテ勝者タラシムルハ東洋ノ安寧ニ害アリ況ヤ帝國ノ之ヲ敵トセル今日ニ於テヲヤ故ニ聯合軍ヲ助テ之ヲ圧伏スルヲ要ス

出兵ヲ不可トスル理由

一、帝國ハ国防ヲ完フシ東洋ノ安寧ヲ保持スルヲ以テ國是トシ此國是ヲ以テ建軍ノ基礎トス帝國ハ嘗テ未タ軍ヲ歐西ニ出スヘキ考慮ヲ建軍ノ一因ニ加ヘタルコトナシ

一、必任義務ノ制度ハ祖国ノ防衛國權ノ擁護ヲ本旨トシ帝國ノ利權ヲ完フセンカ為止ムヲ得サルニ非レハ漫ニ兵ヲ動カササルヲ主義トス

一、今回帝國ノ独逸ヲ敵トシテ起チシモノハ日英同盟ノ誼ヲ完フシ東洋平和ノ禍根ヲ芟鋤セント欲シタルナリ兵ヲ

提ケテ直接歐西ノ戦場ニ立ツカ如キハ初ヨリ考慮セス又何等出兵ノ義務ヲ生スヘキ理由存在セス

一、歐洲東西ノ戦場ニハ殆ト一千万ノ兵力ニ近キ大軍行動シ仏國方面ニ於テハ独軍百六七十萬聯合軍約二百萬ヲ算スヘシ此大局ニ一子ヲ下シ能ク聯合軍ノ頽勢ヲ挽回シテ独軍ノ雌伏ヲ期センニハ尠モ十萬團内外ノ新鋭ヲ提ケ之ヲ戰略要點ニ用ノコトナレド實際此要點存在スニ投シ之ヲ突破シ聯合軍ヲシテ応援ニ感奮シ大勢ノ順転ニ踴躍シ協同策應衝天ノ行動ヲ採ラシムヘキ核心タラサル可ラス

一、帝國ハ滿韓ニ二個師團山東ニ一個師團内地ニ十二個師團ニ齊シキ兵力ヲ剩スモ尚十萬團二十個師團ノ遠征軍ヲ西歐ニ送ルヲ得ヘシ故ニ帝國ノ威武ヲ世界ニ顯彰スルコトハ之ヲ為シ得サルニ非ス然レトモ列國會議ニ於テ發言權ノ優越ヲ得ンコトハ既ニ疑ナキコト能ハス況ヤ我ノ失フ所ヲ賠償シ得ヘキ戦償ヲヤ

一、我軍二十師團ヲ出スニハ二千噸以上ノ運送船少モ二百万噸以上ヲ要ス運送船費一日既ニ約千萬元ニ垂ントシ二十師團ノ戦費一日少モ四百萬元一遠征師團ハ在歐年一十算ヲ要シ一ヶ月ノ費用四億二千萬円ニ達ス遠征數ヶ月數十億ノ戦費到底賠償ヲ得ルノ望ナシ若シ夫レ土地ノ如キ

發見セス

大正三年十一月六日

大島 健一

(附記四)

十一月九日大島陸軍次官ヨリ加藤外務大臣ヘ送

附セル日本軍歐洲派遣問題ニ関スル對英回答要

旨

回答要旨

一、歐洲ノ戦場ニ帝國軍ヲ派遣スヘキ閣下ノ御内意ハ貴國大使ヨリ委曲伝承セリ

一、帝國ハ常ニ同盟國ノ地位ヲ顧慮シ其艱難ヲ軽減センコトヲ熱望シテ休マス故ニ今回ノ貴慮ニ對シ種々考量シタレドモ困難ナル事情一ニシテ足ラス到底之ニ応スルノ策按ヲ得ス夫レ帝國ノ新鋭ヲ加ヘテ独軍ニ痛撃ヲ与ヘ之ヲシテ遂ニ敗退雌伏セシメンカ為ニハ少モ十萬團内外ノ兵力ヲ以テセサル可ラス是等人馬材料ノ輸送ニハ二百万噸以上ノ運送船ヲ要ス此船舶ヲ徵集シ之ヲ歐西ニ輸送センニハ多大ノ日月ヲ要シ帝國軍ノ戦線ニ到着スルハ早クモ三ヶ月ノ後ナルヘシ特ニ馬匹ノ如キハ遠洋航海ノ為廢斃続出シ之ヲ補充休養ニ時日ヲ要シ遂ニ戦機ニ後ル、ニ至

一〇 日本軍歐洲派遣ニ関スル交渉一件 六二一

仮ニ之ヲ独逸若クハ独領ヲ得ルモ得ル所ヲ償フニ足ルモノナシ

一、戦費運送船ノ如キ我之ヲ望マバ英仏ハ或ハ之ヲ無費用ヲ以テ供給スルコトアルヘキモ如此ハ帝國軍ヲシテ他ノ雇傭ニ座セシメタルモノニシテ帝國ノ尊嚴ヲ隕シ發言權ノ全部ヲ失フモノナリ

一、帝國ハ如何ナル事態ノ生スルモ露國極東ノ掩障タルヲ許約シ殊ニ近ク決定セサルヘカラサル對策ノ困難ナルモノアリ帝國ノ利權ヲ完フシ東洋永遠ノ平和ヲ企圖敢行センカ為ニハ兵備ヲ嚴ニシ常ニ冒ス可カラサルノ威嚴ヲ備ヘテ他ノ横議ヲ制セサル可ラス何ゾ帝國軍ノ主力ヲ割テ遠ク絶海ニ派遣シ得ヘキ秋ナランヤ

一、今回ノ大乱ニ於テ英仏ハ甚タ困難ノ位地ニ陥ラン然レトモ独露方面ハ鋭小鈍大永ク相對峙シ互ニ一勝一敗曠日弥久遂ニ独國ノ困憊ニ因リ列國共ニ各怨ヲ吞ンテ一時偃武ノ止ナキニ至ラン若シ夫レ独國有利ノ形勢ニ於テ戦局ヲ結フモ戦争ノ困憊容易ニ回復シ難ク四隣ノ睥睨益甚シク加フルニ全ク東洋ノ扼點ヲ失ヒ暫クハ東洋ノ利權ニ蝕ルルヲ得サルヘシ故ニ帝國ハ前述ノ如キ困難ヲ冒シ經費ヲ投シテモ敢テ大軍ヲ歐西ニ出ササル可ラサルノ理由ヲ

ラン

一、元來我軍ハ帝國ノ防衛東洋安寧ノ庇護ヲ本旨トシ必任義務ノ制度亦此要義ニ基ケリ隨テ兵備甚タ大ナラス遠ク之ヲ歐洲ニ派遣スルハ頗ル困難ナル事情アリ

一、用兵上ノ見地ヨリスルモ四十有余萬ノ大兵ヲ絶海遠ク一万哩外ニ差遣シ彈藥衣食人馬ノ補給ヲ完全ニシテ克ク其戦闘能力ヲ發揮セシメントスルハ殆ト絶望ノ事ニ屬ス

一、青島既ニ陥落シ今ヤ東洋事ナキカ如キモ世界形勢ノ變転ハ逆睹シ難ク此變転ニ應ジ独リ帝國ノミナラス東洋ニ於ケル英國ノ利權ヲ擁護センカ為帝國ハ其軍備ヲ完フシ隱然東洋ノ重鎮タルコトハ極メテ必要ナリト信ス

一、本職ハ閣下ノ親昵ナル御希望ニ副フ能ハス同盟ノ誼辱知ノ情ニ於テ殊ニ遺憾トスル所ナルモ事態不可能ニ屬シ他ニ策ノ施スヘキナシ敢テ玆ニ内情ヲ披陳ス

十一月九日夜

(欄外註記)
「大正三年十一月九日附ヲ以テ大島陸軍次官ヨリ加藤外務大臣ヘ送附アリタリ」

六二二 十一月十四日 加藤外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛（電報）

日本軍歐洲派遣ニ関スル英國政府ヨリノ要請謝
絶ニ至ルマデノ経緯通報ノ件

第三〇一号

本年九月初露都ニ於テ露国外務大臣及聯合軍側大使間ニ日本兵歐洲派遣ノ件ニ関シ内談ノ次第アリ當時本大臣ヨリ在本邦英國大使ニ其趣内話シ本件ハ主義上実行到底困難ナルヘキ旨申添置キタル事アリ英國政府ニ於テ其趣ハ諒シ居リタル処十一月四日在本邦英國大使本大臣ヲ訪ヒ「サー、エドワード、グレー」ノ密電ヲ内示セリ其要旨ハ目今ノ形勢ニテハ万事歐洲ニ於ケル決戦ノ結果ニカ、ル処土耳其古ハ新タニ戦争ニ加ハリ英國ノ新募兵ハ来年四五月ナラデハ戦場ニ出ルニ至ラス今日ハ唯戦場ニ於ケル現勢ヲ維持スルノミナリ此危急ノ時ニ於テ日本ノ出兵ハ極メテ重大ナル結果ヲ来タスヘキニ付青島ノ陥落ヲ機トシ派兵ノ事詮議アリタシ費用ハ英國政府ニ於テ心配スヘシト云フニ在リ右ニ對シ本大臣ハ篤ト考量スヘキ旨答ヘ置キタル処本月七日英大使ハ更ニ本國政府ノ來電トシテ援兵ノコト若シ出来得ルトスレハ英軍ト同様仏白独ノ方面ニ於ケル戦鬪ノ主タル部分ニ

付敵ニ貴官限りノ事項ト御承知ノ上一切外間ニ洩レサルヤ
ウ御注意アリタシ為念電報ス

右在露在仏在米大使ニ転電アリタシ

六二四 十一月十五日 在本邦英國大使ヨリ
加藤外務大臣宛

英國海軍省ヨリ日本海軍省宛援助要請ニ関スル

電報写送達ノ件

Private

November, 15, 1914.

Dear Excellency

I beg to send you a copy of a Private and Secret telegram respecting Naval Movements which I received from London this afternoon. I may add that I have sent a copy of this telegram to the Minister of Marine by the hand of the Naval Attaché to His Majesty's Embassy in order to save time.

Your Sincerely

(signed) Conyngham Greene

参加スルコトシタク兵力ハ終局ノ目的ヲ達スルニ十分ナルヲ要スルコト等ヲ申出テタリ依テ帝國政府ハ事ノ頗ル重大ナルニ鑑ミ慎重ニ審議シタルモ何分我軍隊組織ノ精神及派兵実行ノ困難等ニ鑑ミ到底英國政府ノ希望ニ応スルコト能ハサルニ付十一月十四日英國大使ニ對シ帝國政府ノ回答トシテ別電第三〇二号ノ通覺書ヲ非公式ニ手交シタルニ付委曲右ニテ御承知アリタシ

右極内密ノ御含迄ニ電報ス本電別電ト共ニ在露在仏在米大使ヘ極内密ノ含迄トシテ転電アリタシ

註 別電第三〇二号ハ前掲六二一文書附屬書ノ覺書全文ナリ省略ス

六二三 十一月十五日 加藤外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛（電報）

歐洲ヘノ日本軍派遣ノ問題ガ外間ニ漏レザル様

注意方ノ件

第三〇三号

往電第三〇一号及第三〇二号ノ件ハ全然本大臣ト「サー、エドワード、グレー」限りノ極内密非公式ノ往復ニシテ在本邦英國大使館ニ於テモ其電信簿ニ登載シ置カサル趣ニ

（別紙）

Telegram from the British Admiralty to the Japanese Admiralty.

The destruction of the "Emden" and the blocking of the "Königsberg", together with the fall of Tsingtau have resulted in the Pacific and Indian oceans being cleared of the enemy, with the exception of the coast of Chile. In order that the fullest advantage may be taken of the situation, we hope and wish that the Japanese Admiralty will consent to the following arrangements:—

Firstly:—that they will allow their squadron which is to be concentrated at Guadeloupe to search for the "Scharnhorst" and "Gneisenau" and to pursue them;

Secondly:—that they will make such dispositions of their squadrons and ships in the Australasian Archipelago as will be calculated to prevent the return into the Pacific of the German ships from the coast of Chile, and so afford protection to the trade of Japan and Great Britain throughout the Indian and Pacific Oceans;

Thirdly:—as these operations will not fully oc-

cupy the naval forces of Japan, we ask whether the Japanese Government and Admiralty would find it agreeable to send a squadron to the Dardanelles to blockade the German-Turkish fleet there, and, in the event of their trying to emerge, to destroy them. By these means two British battle-cruisers and one light cruiser of a fast type would be released and enabled to join the main British Fleet.

If any other method of aiding us in the main theatre of war is preferred by the Japanese Admiralty, we hope they will inform us; but the above plan is strongly recommended by us, as it constitutes a self-contained operation of the highest importance.

If any vessels employed in the last-named operation were lost, we should of course be willing to indemnify the Japanese Government; and all facilities for fuel, supplies and docking will be afforded by us free of cost to any vessels employed in European waters.

British Embassy, November 15th
Tokio. 1914.

六二六 十一月十七日 加藤外務大臣ヨリ
八代海軍大臣宛

我海軍省ヨリ英国海軍省へノ回答案ニ付変更簡
所通報ノ件

帝国海軍省ヨリ英国海軍省へノ回答案ニ関ス
ル件

昨十六日附ヲ以テ貴大臣ヨリ英国海軍省へノ回答案要領御
開示相成了悉右ノ中前節ニ関シテハ当方ニ於テ異存無之候
ヘトモ後節ニ就テハ左ノ通變更致度此段回答申進候也
第三項ハ第一項第二項ノ如ク軍事当局者間ニ於テ直ニ協
定シ得ヘキ問題ニ非ラサルニ付帝國政府ニ於テ議ヲ定メ
タル上ニテ回答スヘシ

六二七 十一月十七日 在英國井上大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日本軍ノ歐洲派遣問題ノ漏洩防止方ニ関シ進言
ノ件

第四五五号(極秘)
貴電第三〇三号ニ関シ御訓令ノ件ハ素ヨリ嚴重ニ服膺スヘ
キモ茲ニ為念申進度キハ本件「グレー」氏ノ提議ハ全然非

六二五 十一月十六日 八代海軍大臣ヨリ
加藤外務大臣宛

我海軍大臣ヨリ英国海軍省ニ対スル回答案要領
ニ付意見回附方要請ノ件

極秘
別紙英国海軍省へ回答案要領入御覽候間御意見御回附相成
度候 敬具

(別紙)

海軍大臣ヨリ英国海軍省ニ回答案要領

第一項及第二項ノ主旨ハ同意ヲ表ス其ノ内容ハ現ニ日本海
軍々令部長ヨリ英国海軍々令部長ニ提議中ノモノト主旨ヲ
同フス尚其實行ニ至リテハ兩國海軍々令部長間ニ協定セン
コトヲ望ム

第三項ハ第一項第二項ノ如ク軍事当局者間ニ於テ直チニ協
定シ得ヘキ問題ニアラズシテ寧ロ兩國政府間ニ於テ先ツ之
ヲ決定スヘキ問題ナリト思考ス故ニ本項回答ハ加藤外務大
臣ヨリ得ラルベシ

公式トハ謂フモノノ其實閣議ヲ經テ決定セラレタルモノナ
ルヘク尠クトモ首相ハ勿論陸海軍及ヒ大藏等各大臣協議ノ
上ナルヘキコトハ事ノ性質上想像スルニ難カラス從テ我方
へ交渉ノ次第モ政府部内ノ重ナル連中間ニハ案外広ク知レ
亘リ居ルヤモ難計ト存セラルルノミナラス現ニ十一月十三
日内務次官 Griffith Bristol ニ於ケル宴会席上ノ演說中
our old ally Japan had heroic work and, I trust, is
going to do still more forcible and extensive work
in future トノ一節ノ如キ同氏カ政府当局者トシテ内知シ
居ル消息ニ基キ一種ノ暗示ヲ公衆ニ与ヘタルモノノ如ク解
セラルルカ往電四二二二号ヲ以テ報告シタル通り歐洲戰鬪ニ
日本軍ノ参加ヲ促ス義ハ今ヤ当國言論界ニ追々勢力ヲ加ヘ
一般人心ハ英國政府一片ノ照会ニテ日本國ハ直ニ軍隊ヲ派
遣スヘキモノナルヤニ誤解シ居ルヲ以テ自然目下開會中
ノ議會ニ於テ本件ニ付何等カ質問ヲ提起セラルルコトナキ
ヤモ計リ難ク其節若シ政府ニ於テ我方ニ交渉ヲ試ミタルモ
拒絕ニ遇ヒタルコトヲ答弁スルカ如キコトモアラハ當國一
般ノ失望ト邪推トニヨリ頗ル好マシカラサル影響ヲ生スル
虞アリ就テハ此際閣下ヨリ在本邦英國大使ヲ經テ今回「グ
レー」氏トノ往復ハ英國政府部内ニ於テ一切極秘ニ付セラ

ルノキ様適當ノ注意ヲ加ヘ置カルルコト必要ニアラサルカ
ト思考セラルルニヨリ御参考迄ニ申進ス

六二八 十一月十八日 海軍大臣副官谷口大佐ヨリ
在本邦英國大使館附海軍武
官ライイマー大佐宛

日本海軍ノ援助要請ニ関スル英國海軍省電報ニ
対シ回答ノ件

Ministry of the Navy,
18th, Nov. 1914.

To Captain E. H. Rymer R. N.
Naval Attaché,
British Embassy, Tokio.

Telegram conveying the plan conceived by the
British Admiralty, set forth in three items and
requesting the consent and cooperation of the
Japanese Admiralty, has been duly laid before the
Minister of the Navy and in reply I am ordered to
communicate as follows:—

The arrangements stated in the first and second
items are approved, the purport of which coincides
with that referred by the Chief of the Japanese

シタリトテ別紙右写ヲ提出シタルニ付大臣ハ英國政府ニ於
テ帝國政府ニ回答ノ趣旨即チ我ニ於テ英國政府ノ立場ニ対
シ同情ハ十分ニ之ヲ表シ居ル次第ヲ篤ト了解セラレタルハ
誠ニ満足ニ堪ヘサル所ナリト告ケラレタルニ大使ハ海軍
ノ方ハ如何アラント尋ネタルニ付(別紙來電ニハ海軍ノコ
トモ含ミ居レリ)大臣ハ其件ハ先日モ申上タル通海軍大臣
ハ伝ヘアル次第ナルガ之モ實際送援ノ件到底不可能トノコ
トニテ實ハ御斷ノ回答案送出來居ル様ノ次第ナルカ未タ天
皇陛下ニ伺ハサル故一応伺ヒタル上正式ニ御答スヘシトノ
コトナリト述ヘラレタリ

(別紙)
写

Telegram from Sir Edward Grey.

Please thank the Minister for Foreign Affairs for
the consideration given by the Cabinet to the ques-
tion of sending Japanese troops or ships to Europe
and add that, although the decision arrived at is
regretted by His Majesty's Government, who do
not consider that the difficulties would be insuper-
able, they quite understand that there are real dif-
ficulties in the way of the realization of the project,

Naval General Staff in his proposal to the First
Sea Lord of the British Admiralty and the authori-
ties concerned should therefore decide the further
details in putting them into operation. With
regard to the third item, however, whereas the
nature of the question is obviously different from
that of either the first or the second item, and ac-
cordingly it is deemed inadvisable on the part of
the naval authorities to enter into any direct con-
sultation on the subject, the definite answer will be
given in due course when it is considered by the
Imperial Government.

(signed) N. Taniguchi
Captain, I. J. N.
A. D. C. to the Minister of Marine.

六二九 十一月二十一日 加藤外務大臣
在本邦英國大使 會談

日本軍ノ歐洲派遣謝絶ヲ英國政府ニ承ニ関スル
件

大正三年十一月二十一日英國大使來省日本軍歐洲派遣ノ件
ニ関スル帝國政府ノ回答ニ対シ英國外務大臣ヨリ來電ニ接

and they throughly appreciate the good will with
which the matter has been approached by the
Japanese Government.

British Embassy,
Tokyo.
Nov. 21, 1914.

六三〇 十一月二十五日 加藤外務大臣 會談
在本邦英國大使

日本軍艦歐洲派遣謝絶ニ関スル件

附屬書 十一月二十五日加藤外務大臣ヨリ英國大使ニ

手交ノ覚書
同右件

大正三年十一月二十五日英國大使來省大臣ヨリ日本軍艦歐
洲ニ派遣ノ件ニ関スル帝國政府ノ回答(別紙写ノ通)ヲ手
交セラレ既ニ先日來申述ヘタル所ト異ナル所ナキモ之ハ帝
國政府正式ノ回答トシテ差出ス次第ナリト述ヘラレタルニ
大使ハ其意ヲ了シ早速本國政府ニ電報スヘシト云ヘリ

(附屬書)

十一月二十五日加藤外務大臣ヨリ英國大使ニ手交ノ覚書

日本軍艦歐洲派遣要請ニ対シ謝絶ノ旨回答ノ件

Secret.

MEMORANDUM.

On the 15th November, His Excellency the British Ambassador handed to Baron Kato copy of a telegram to the Japanese Department of the Navy from the British Admiralty, in which (under heading three) the Japanese Naval Department is asked if Japan would find it agreeable to send a squadron to the Dardanelles to blockade the German-Turkish fleet there, and in the event of their trying to emerge, to destroy them.

Prior to this, on the 4th of the same month, His Excellency the British Ambassador requested Baron Kato to transmit to the Japanese Minister of the Navy a most secret message from the First Lord of the Admiralty.

The Imperial Navy is, as the British Ambassador is well aware, organized with the main object of defending the Empire against the foreign invasion and of securing Japan's position in East Asia. It was not contemplated from the first to send expeditionary forces to distant foreign waters.

us by the articles of the Anglo-Japanese Alliance.

In view of these considerations, the Imperial Department of the Navy extremely regrets that it is unable to meet the wishes of the British Admiralty.

Foreign Office, Tokio,

November 25th, 1914.

〔欄外註記〕

「本書ノ淨写ハ大正三年十一月二十五日午後本省ニ於テ外務大臣ヨリ英大使ニ手交済、本書ノ写ハ大正三年十一月二十五日午前小池局長ヨリ秋山軍務局長ハ半公信ニテ送ス」

六三一 十一月二十五日

加藤外務大臣ヨリ
在英国井上大使宛（電報）

英国海軍ヨリ我海軍ノ援助要請問題ニ関スル経

緯通報ノ件

第三二八号（極秘）

十一月十五日在本邦英国大使ハ英国海軍ヨリ帝国海軍宛ノ電信案ヲ本大臣ハ送越セリ右電信ハ独乙軍艦Scharnhorst Gneisenau 等ニ対スル策戦上ノ協議事項ヲ第一点及第二

These facts were personally explained to Sir Conyngham Greene by Baron Kato on the 9th September last and to Sir Edward Grey on the following day by the Japanese Ambassador in London, and the Imperial Department of the Navy trusts that they are fully understood by the British Admiralty. In view, however, of the renewed proposal made by the British Admiralty, the Imperial Government have studied it with the greatest consideration which the importance of the question demands. They are, however, unable to alter the decision which they have arrived at. In their point of view the dispatch of a force strong enough to render the effective assistance as desired by the British Admiralty would seriously weaken the national defence and thereby cause grave uneasiness and misgivings at home. Moreover, the presence of the Japanese main fleet in these waters being a strong factor of guarantee of peace in East Asia, its removal to the theatre of War in Europe would render it exceedingly difficult to meet with any emergency that may arise in East Asia, and to carry out completely the obligations imposed upon

点ヲソテ記載シ次ニ第三点ヲソテ日本政府ハ英国艦隊ニ協力シテ独土（German-Turkish）艦隊ヲ封鎖スル為メDardanelles ニ一艦隊ヲ派遣スルコトニ同意セサルヤ且若シ派遣ノ場合ニハ之カ為メ使用セラルヘキ船艦ノ損失ニ対シテハ之ヲ補償スヘク燃料軍需品等ハ無料ニテ一切ノ便宜ヲ与フヘキコトヲ記載セリ

右ニ対シ第一点及第二点ノ策戦上ノ申出ニハ全然同意ヲ与ヘタル上前記第三点ニ関シテハ追テ政府ノ議ヲ定メテ回報スヘキ旨帝国海軍ヨリ直接十一月十八日英国大使館附武官 Captain Rymer ニ回答シタリ

之レヨリ先十一月四日英国海軍大臣ハ八代海軍大臣宛 Most Secret message トシテ来春勿々英国艦隊ハ Baltic

ニ入リテ敵ニ強庄ヲ試ムルノ希望ナル処其レ迄ニハ青島モ陥落スヘク且各地ニ出沒スル独艦モ殲滅セラルヘキニヨリ英国ハ日本ガ戦争ノ初期ニ与ヘタルト同様ノ援助ヲ戦争終局ノ決戦ニモ与ヘンコトヲ希望スル旨申入レタリ

仍テ帝国政府ニ於テハ重ネテ慎重ニ考量ヲ尽シタル上別電第三二九号ノ通り十一月二十五日日本大臣ヨリ英国大使ニ覺書ヲ手交シタリ委曲ハ右ニテ御承知アリタシ右極内密ノ御含マテ電報ス

本電別電ト共ニ在露在仏在米大使へ極内密ノ含マテトシテ
転電アリタシ

註 別電第三一九号ハ前掲六三〇文書附屬書ト同文ナリ省
略ス

六三二 十一月二十六日 加藤外務大臣ヨリ
在英国井上大使宛(電報)

日本軍歐洲派遣要請謝絶ニ対スル英国外務大臣

ヨリ在本邦同国大使宛電報ニ関スル件

第三二二号(極秘)

十一月二十一日在本邦英国大使来省日本軍歐洲派遣ニ関ス
ル帝国政府ノ回答ニ対シ英国外務大臣ヨリ来電ニ接シタル
趣ニテ其ノ写(別電第三二二号ノ通り)ヲ本大臣ニ提出セ
リ右電報中ニ Japanese troops or ships トアル処艦隊派
遣ノ事ニ就テハ往電第三一九号ノ通十一月二十五日正式ニ
回答シタル次第ナルカ之レヨリ先十一月十四日会见ノ節軍
艦派遣ニ関シテハ何レ正式ニ回答スヘキモ到底帝国政府ニ
於テ同意六ヶ敷カルヘキ旨内話シタルコトアリシヲ以テ在
本邦英大使ヨリ本国政府ニ其旨電報シタルニ基ケルモノト
察セラル

六三四 十二月十四日 在英国井上大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

太平洋ノ独逸艦隊殲滅ニ関スル「タイムス」及

「モーニング、ポスト」ノ社説報告ノ件

第五〇七号 (十二月十七日接受)

太平洋ニ於ケル独逸艦隊殲滅ニ関スル日英海軍当局ノ祝辭
ノ交換ニ関シテ十一月十四日「タイムス」及「モーニン
グ、ポスト」ハ大要左ノ如キ社説ヲ掲ケタリ

チャーチル氏ハ最近英国海軍ノ捷利ニ対スル日本海
軍大臣ノ祝辭ニ答ヘ日本海軍ノ多大ノ援助ニ対シ熱
誠ナル謝意ヲ表シ居レルカ全英帝国カ英国海軍大臣ト
其感ヲ同フスルコトハ玆ニ贅言ヲ要セス吾人ハ賞讃ト感
謝ノ念ヲ以テ日本カ協同ノ目的ノ為ニ竭シタル多大ノ貢
献ヲ認識ス開戦当初日本艦隊ハ我貿易ヲ威嚇セル独逸艦
隊ヲ驱逐シ太平洋上ノ独逸領諸島ヲ占領シ更ニ一般貿易
ノ保護敵艦搜索軍隊ノ輸送ヲナス等多大ノ援助ヲ与ヘタ
リ日本ハ素ヨリ自ラ同盟ニ忠実ナラサルヘカラス
(Japan owed it to herself to be faithful) トハ前議
会ノ外交演説ニ於テ加藤男ノ揚言シタル所ナリ吾人ハ同
男ノ所謂日本外交政策ノ枢軸タル日英同盟条約ニ基キ日

註 別電第三二二号ハ前掲六二九文書ノ別紙ト同文ナリ省
略ス

六三三 十二月一日 加藤外務大臣
在本邦英国大使 会談

英国ヨリ歐洲ヘノ日本軍派遣要請ヲ議會ニ於テ
公表セザルコトニ関シ談話ノ件

曩ニ歐洲ヘ日本軍派遣拒絶ノ件大臣ヨリ英国大使へ談話ノ
際同大使ニ対シ本件ニ関スル英国外務大臣ノ申出ハ全然
私的且非公式性質ノモノト承知シ居ル故若シ議會ニ於テ何
レカノ政府ヨリ出兵ノ要求ニ接シタルヤトノ質問アラバ
Any of the Governments ヨリモ要求ナシト答ヘ可然カ
ト思考スル旨語ラレ英国大使ヨリ右ニテ差支ナカランカト
ハ思料スルモ尚英国外務大臣ニ電報シ其意向ヲ聞キ置クヘ
キ旨答ヘタルコトアリタルガ同大使大正三年十二月一日来
省ノ際右回答ニ対スル英国外務大臣ノ返電ナリト別紙写
ヲ提出シタルニ付大臣ハ一読ノ上尚熟考シ置クヘキ旨答ヘ
ラレタリ

註 別紙写外務省記録ニ存セズ

本ニ依頼スル所アリ義俠ニシテ信義アル日本ハ直ニ之ニ
応シテ立テリ日本皇帝及其政事家カ時局ニ応シテ執リタ
ル態度モ亦頗ル遠慮ニ富メリ斯クシテ日本ハ世界の強國
トシテ今次ノ大戦ニ参加シ以テ平和克復ノ場合ニ於ケル
發言權ヲ得ルノ機会ヲ捕ヘタリ

日本人ハ久シキ以前ヨリ各国間ニ其ノ外交的地位ヲ認メ
ラレタルモ今次ノ戦争ハ更ニ一個ノ新位置 (A new
moral status) ヲ日本ニ与フルコトナルヘシ又「ゼネ
ラル、バーナージストン」歡迎ニ際シ日本新聞紙カ今次
ノ戦争ハ雷ニ日英同盟ノ確認タルニ止ラス東西ノ關係ニ
一新時期ヲ劃スルモノナリト謂ヘルハ頗フル肯綮ニ当レ
リ思フニ三国協商ノ維持ト其ノ勝利カ即チ日本ノ地位ヲ
擁護スル最強ノ保障ナリトハ日本ノ認識スルコト今次ノ
戦争ニヨリ証明セラレタリ日本ハ英露ノ同盟カ亞細亞ニ
於ケル平和ノ保障タルカ如ク日露ノ協商カ極東ニ於ケル
日本ノ勢力ヲ鞏固ニシ且發展セシムル所以ナルハ今ヤ日
本ノ認ムル所タルハ吾人ノ信スル所ナリ日本ハ地理的ニ
亞細亞ニ強國ナルモ歐洲文明ノ維持ノタメニ戦ヒツア
ル各国民ト提携シテ今次ノ戦争ニ参加シ世界ノ最強國ト
伍スルノ資格ト權利トヲ有スルコトヲ証明シタリ日本國

民ノ年来抱持セル高尚ナル宿望ノ実現ハ吾人ノ切ニ祝福スル所ナリ

英国ニ取り今次戦争ノ齎シタル最モ顯著ニシテ且喜フヘキ結果ノ一ハ日英同盟カ事態ノ急ニ応シテ両帝国ノ利害ト感情トヲ十分満足セシムルニ如何ニ適シタルカヲ証明シタルコトニアリトス日本カ全然日英同盟ニ忠実ナルノ事実ハ日本ヲ熟知スルモノノ信シテ毫モ疑ハサル所ナルモ吾人ハ之レニ対シテ満腔ノ感謝ヲ表セサルヘカラス日英協同作戦ハ同盟国相互ニ尊敬ノ念ヲ増シ且其關係ヲ密接ナラシメタリ日本国民ノ感情ハバーナジストン將軍

ノ東京ニ於ケル歡迎ニ由リテ最モ好ク表示セラレタリ同將軍ニ対スル日本ノ歡迎ハ吾人ハ深ク之レヲ認識セサルヘカラス日本人ハ如何ナル国民モ之ヲ知己トシ又同盟トシテ誇ルニ足り又其ノ軍隊ハ恐ルヘキ威力ヲ有スルト同時ニ慈愛心ニ富メル事実ヲ証拠立タリ日英協同作戦ハ同盟ノ裏書ヲナシタリトハ日本新聞ノ唱フル所ナルモ吾人ハ更ニ進ンテ日英協同作戦ハ日本ヲシテ西洋文明国民ノ列伍ニ於テ確乎タル且名譽アル地歩ヲ得シメタリト云ハシト欲ス

事項一一 独領太平洋諸島占領一件

六三五 九月十二日 在本邦英國大使ヨリ
加藤外務大臣宛

濠洲派遣隊ヤンプ及ナウル占領ノ為進行中ナル
ニ付注意方希望ノ件

Sir W. C. Greene, British Ambassador at Tokio
to Baron T. Kato, Minister for Foreign Affairs.
Private.

September 12, 1914.

With reference to our conversation of the 9th instant when we spoke of the forthcoming cruise of some ships of the Imperial Navy in the Marianne, Marshall and Caroline islands, I am desired by Sir Edward Grey to acquaint you very confidentially that an Australian expedition is now on its way to take possession of the islands of Yap and Nauru (Pleasant island), and I am to add that Sir Edward hopes that Your Excellency will be good enough to see that the cruise may be conducted so as not to conflict with the operations of the Australian ex-

pedition.

Yours sincerely,

六三六 九月十二日 加藤外務大臣ヨリ
在本邦英國大使宛

濠洲派遣隊ノ行動通報ニ対シ表謝ノ件

Baron T. Kato, Minister for Foreign Affairs to
Sir W. C. Greene, British Ambassador at Tokio.
Tokio, Sept. 12, 1914.

Pray accept my thanks for your letter this morning the contents of which I have communicated to the Minister of Navy.

Yours sincerely,

六三七 十月二日 閣議決定

日本軍占領下ノ南洋諸島ハ一時占領トスルヤ永
久占領トスルヤニ関スル件

(註) 別紙「南遣支隊配備施設変更ニ付増加経費」ニ関スル件大